

## 【アンケート集計】

### ■集計内訳

年齢	20代	30代	40代	50代	60代以上	合計
女性	2	4	3	2		11
男性	2	8	7	8	3	28
合計	4	12	10	10	3	39

### ■病理学会員かどうか

はい	26
いいえ	13

### ■所属

大学	25
研究機関	5
病院	4
その他	5

### ■都道府県

都道府県	アンケート回答数	参加人数
北海道		1
宮城		3
茨城	2	2
栃木		2
埼玉	2	3
千葉		2
東京	15	33
神奈川	2	3
石川	1	1
長野		1
岐阜		1
静岡	2	2
愛知	5	8
三重		2
京都	1	5

大阪	1	10
兵庫	2	9
奈良	1	4
和歌山	1	1
広島	2	3
愛媛		1
福岡	1	5
長崎		2
熊本	1	3
沖縄		1
ドイツ		1
合計	39	109

出席者総数 109 名

(うち、特別講演者 12 名)

#### ■参加動機

ポスター発表

春の病理学会総会で福本先生の話聞いて、興味を持った

デジタルに興味はあるものの、身近でないため

画像解析に携わっているため、興味深かった

病理学会専門医資格更新のため

テーマに興味を持った

デジタルパソロジーに興味があったため

研究推進委員会に参加

開催場所がよかった

病理診断の数値化の研究しており、興味があったため

画像処理を用いた客観的病理診断に興味があるから

教授に紹介していただいた、上司のすすめ

invited speaker として

今回テーマが、仕事内容に関係すると思い、情報収集や議論を行いたいと考えた。市場調査。

前回は参加し大変勉強になったから

研究報告

共同研究者に誘われて。紹介

自分の詳しくない研究について聞きたいから

デジタル病理学の最新動向を学びたいと思った

デジタル画像の利用、および可能性に興味をもった

スタッフとして

病理組織の定量的解析、数理的解析に興味があった  
新情報を得るため

### ■次回も参加したいか

すごく思う	10
思う	28
あまり思わない	0
全く思わない	0
分からない	1

### ■感想・意見

病理学の分野の広さ、とらえ方の多様性について、学べる良い機会となった。

相部屋は事前告知しておいたほうがいい。相部屋がないといい。(女性 2、男性 2)

ポスターの投票を参加者も行ってもいいのでは

会場までのバス運行が最悪だった。ホテルとの連携をお願いしたい(女性 1)

全体的に、会場構成にゆとりがあり、コーヒースタンドの時間も開放的で過ごしやすかった

いろいろな分野の話が聞けておもしろかった

実習形式のような、画像解析の実際があった方が、より具体的に問題を把握できたのでは  
自分の専門分野ではなかったが、デジタルパソロジーの有用性や現状の問題点がわかった。  
多彩な発表者で大変面白く、マーケットリサーチもできた。少人数のアットホームな環境で、  
リラックスして勉強ができた。

デジタルパソロジーに将来性を実感させるカンファレンスだった

ポスター発表について、貴重な意見をいただき、とても刺激的なカンファレンスだった

分野違いだったが、ためになった

パネルディスカッションが非常に有意義だった。通常の学会では時間により制限があるため、  
質問が難しいが、この会ではじっくり議論ができ、深い理解につなげることができた。

幅広いテーマの発表が聞けて、デジタル病理の発展性がよくわかった

集中した内容で、とても参考になった

十分に勉強させていただいた

時間配分に余裕があり、コーヒースタンドなどもよかった

毎年フレッシュなテーマを企画してください

興味深い内容だった

デジタルパソロジーをテーマに一貫された会だったので、非常に参考になった

画像に関する先端技術と基礎的理論を理解することができた

今後の病理のあり方を考えさせられる素晴らしいお話しだった

デジタルパソロジーの現状がよくわかった。依然混とんとして目標の明確ではない発表もあったが、目指す将来像を提示された講演もあった。

従来、形態学的観察が病理診断のおうどうとして、経験が大きなウエイトを占めてきており、学問的客観性において、不安を感じる面を払しょくできませんでした。今回画像を数量的、デジタル化という方法で解析し、診断さらには動的な悪性腫瘍の予後解析にまでつなげようという試みがなされていることに、大きな感動を覚えた。現在の顕微鏡をのぞく日々の診断ではありますが、簡便な装置で標記の診断工場が図れる日が待ち遠しい。

もう少し、詳しい資料があればよいと思う。例えば発表のPPTなど。

病理とかけ離れた演題で、脳細胞の刺激になった

### ■取り上げて欲しいテーマ

もう少し、組織を絡めてほしい

産業医学と病理(アスベスト等)

がんの細胞生物学

今回のデジタル病理学の続編をしてほしい(3票)

一人病理もしくは少数病理医の診断サポートシステム構築に向けて何か取り組まれていることを集めてほしい

がんと代謝

ビジネスにつながりそうなテーマだと、企業関係者もさらに参加するのでは  
病院間、地域間、国などの診断基準の差などについて

剖検・専門医のあり方について

がんの細胞生物学

がんのホールゲノムシーケンス

標本作製について、標準化などの活動があれば紹介してほしい

幹細胞病理学

前がん病変

炎症学と腫瘍学の融合

骨軟部腫瘍

分子生物学関連

老化の病理学

小児がんと細胞分化、エピゲノム

動脈硬化